

指定管理者評価シート

事業名	生涯学習センター運営管理費	所管課(電話番号)	教育委員会総務部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	---------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市生涯学習センター (札幌市教育センター開放施設を含む)	所在地	西区宮の沢1条1丁目1-10
開設時期	平成12年8月25日	延床面積	12,106㎡
目的	市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現を図る。		
事業概要	・生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関すること。 ・生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。 ・生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。 ・生涯学習に関する事業を行う団体の連携及び交流の支援に関すること。 ・学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。 ・生涯学習センターの施設を使用に供すること。 ・その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業。		
主要施設	ホール、講堂、研修室、音楽・演劇スタジオ、メディアプラザ(図書、視聴覚、学習相談コーナー)等		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由: 当該施設は、札幌市における生涯学習施策を推進していくための総合的な中核施設であり、指定管理者には生涯学習に関する専門的な知識や事業の企画立案に関するノウハウが必要であるとともに、運営管理にあたっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成が必要であることから非公募とした。		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸室業務、学習機会提供事業、学習活動支援事業等		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和6年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 ▼ 指定管理運営業務として定めた下記の基本方針・事業目標に基づき、管理運営を実施した。 ○学びを支える環境づくりの推進 ○学びを育む人づくりの推進 ○快適に利用できる施設環境の整備とサービスの向上 ○環境に配慮した効率的・効果的な事業運営 ▼ 財団「ミッション」学びたいあなたのそばに「経営ビジョン」(オモシロい学びの場をつくります・学びの「わ」を広げます・挑戦や成長を楽しみ続けます)に基づき中期経営計画を定め、第1期(R6～R8)の重点取組事業として以下の取り組みを進める。 ○さっぽろ市民カレッジあり方検討事業 ○メディアプラザあり方検討事業 ○生涯学習センター貸室利用促進事業 ○生涯学習センター利便性向上事業 ○自立型職員 育成事業 ○経営安定化推進事業	・基本方針・事業目標に基づき、ハード面、ソフト面の両方のアプローチから総合的に管理運営をすることができた。 ・関係条例や規則の遵守に努め、平等利用の原則を確保することができた。 ・引き続き市民ニーズを捉えた対応で市民サービスの向上を目指す。	A B C D ・適正な管理運営により、要求水準を達成していると認められる。
	▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 ▼ ・貸室の平等利用を図るため、主として抽選による受付を実施した。 ・毎月初めの一斉予約を事前にメールなどで応募できる方法を取り入れるなどの見直しを行い、利便性の向上を図った。 ▼ 多くの市民に情報を提供するため、ホームページや広報誌の発行などの広報活動を行った。 ※ 詳細は「生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関する業務」を参照		・毎月初めの一斉予約の受付方法の変更について、従前の窓口申込のみの対応から、メールでの申込にも対応を拡大したことで、来訪できない利用者や遠方の利用者でも予約しやすい制度となり、より公平で平等な運営方法への見直しが図られたものとして、評価できる。 ・平等利用は公の施設の運営における要であるため、引き続き利用者への丁寧な説明を続けながら、平等利用の確保に努めていきたい。

▼ 障がい者を理由とする差別の解消の推進を行った。	・館内各所のスロープや手摺りについて日常的な整備を行った。 ・ホームページの更新にあたってはウェブアクセシビリティに配慮した。	
▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ▼ 事務用品について、環境にやさしい製品やリサイクル商品、詰め替えで再利用できるものなどを使用し、ゴミの軽減等に努めた。 ▼ 過剰冷房・暖房を控え、事務室内の温度の適切に設定した。 また、貸室においても、利用者に対して設定温度での利用を呼びかけた。 ▼ 利用者に支障が生じない範囲で、館内の照明間引きを行い、使用していない部屋の照明の消灯を徹底するなど、節電に努めた。	・リサイクル商品の価格や事務の能率性も勘案しながら環境配慮を行った。	・平成30年「省エネ診断」の結果を参考にしつつ、引き続き環境に配慮した取組をお願いしたい。 ・環境配慮の観点に加え、光熱費等の高騰状況を踏まえ、引き続き、利用者に支障が生じない範囲での節電等をお願いしたい。
▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成) ▼ 統括管理責任者としてセンター長を配置した。組織体制は、総務・施設管理部門として施設課を、事業部門として事業課を置き、それぞれの責任者として課長を配置した。 ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。 ▼ 係単位で定期的に会議を行い、様々な問題について協議するとともに、文書やメール等により職員間での情報を共有することで、市民サービスの維持向上に努めた。 また、財団が定めた「中期経営計画」や「人材育成基本方針」に関する説明会を開催し、その中で財団の経営状況や経営に関する基本的な考え方、重点的な取り組みなどについての共有を図った。	専任が望ましいが、厳しい財務状況を踏まえ、センター長は事務局長と、施設課長は総務課長とそれぞれ兼務とした。 ・係単位の他に、係間の情報を共有し、迅速な市民サービスの提供を行った。	・突発的な出来事への対応のためには、連絡系統や指揮命令系統を整えることが望ましい。各種想定を行い、迅速な対応が出来る体制の確立をお願いしたい。 ・組織全体での情報共有体制を構築し、組織内において管理運営上の課題解決に努めていただきたい。 ・今後も係間相互に取組や進捗等について意見を出し合うなど、組織全体で目標や取り組む内容を共有し、より良い組織体制の構築に努めていただきたい。

▼ 財団として「人材育成基本方針」を策定した。令和6年度は、内部講師によるキックオフ研修と外部講師による自立型職員育成研修を実施した。(研修会参加一覧参照)	・職員の育成は今後数年かけて計画的に実施する予定となっており、研修効果を評価するためには一定の期間が必要になる。次年度以降も引き続き効果の見込まれる研修等を行っていく。	・生涯学習センターは本市の生涯学習推進の中核施設であり、これからも地域の生涯学習に携わる個人や施設・団体を支援する機能がより一層求められるためには、センター職員の資質向上が欠かせないことから、「人材育成基本方針」に基づき、引き続き適切な研修等の実施をお願いしたい。 ・また、社会教育士の称号取得や、そのための社会教育主事講習の受講などにも積極的に取り組んでいただきたい。
▽ 管理水準の維持向上に向けた取組 ▼ グループウェアの運用 ▼ 会計・財務システムの運用 ▼ 貸室受付システムの運用 ▼ 事故対応要領に基づき、事故防止、事故発生時における、組織内の役割分担、緊急連絡体制などを整備し、迅速かつ適切な対応を心がけた。	・掲示板機能や閲覧板機能等の適切な運用により、管理水準の向上に努めた。 ・職員全員が事故防止を心がけ、安全確保を図ることができた。 ・連絡体制を整備し、各関係団体とも連携を取るよう努めた。	・システムの利用においては、セキュリティ対策を万全にし、特に個人情報の取り扱いにはご留意いただきたい。セキュリティについては、日ごろから職員の意識が重要となるため研修も活用されたい。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

- ▼ 警備・清掃・施設管理などの委託業務において、日報、月報、報告書により管理状況を確認するとともに、適宜打合せを行い、現状の把握と今後の対応などの情報交換を図り、迅速かつ適正な維持管理に努めた。

・委託業務に係るマニュアルに基づき適正な管理を行った。
・故障、破損等の早期発見や、不審者への対応協議など、日常的に情報の共有を図り、適正に業務を監督した。

・第三者への業務委託について、指定管理者制度上、その実施責任はすべて委託者にあることを十分に認識し、適切な指導監督に当たっていただきたい。
・また、委託者として説明責任を十分に果たすことのできるよう、正確な情報伝達、委託業務の履行確認を徹底していただきたい。
・運営協議会での指摘にもあったように、受託者にも生涯学習センターがどのような施設かを理解していただき、利用者への声掛けはより丁寧に行っていたくなど、施設を管理運営する立場として、適切に依頼をしていただきたい。

▽ 委員会及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (8月6日)	委員6名参加 ア 令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画等 イ 令和5年度指定管理者評価報告 ウ 令和5年度市施設利用者アンケート結果報告 エ 令和6年度苦情・要望等報告(4～7月)
第2回 (11月7日)	委員5名参加 ア 令和6年度 上半期事業報告 イ 公益財団法人札幌市生涯学習振興財団第1期中期経営計画
第3回 (2月20日)	委員6名参加 ア 令和6年度事業報告(4月～1月) イ 利用者の声・意見・要望等 ウ 貸室利用料金の改定について
<協議会メンバー> ・佐久間章(札幌国際大学 教授) ・安田敦司(西のコンサ通り商店会 会長) ・竹田慎一(さっぽろ市民カレッジ 講師) ・川上 敏正(一般社団法人 札幌市区民センター運営委員会 常務理事・事務局長) ・大瀬秀樹(所管局・札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長) ・毛利 泰大(札幌市生涯学習センター長)	

令和5年度よりも大きなテーマで議論することに努めたところ、財務状況や事務のあり方、評価方法などの意見が出されるようになった。

・有識者を交えた会議は、施設の管理運営上の問題点・改善点、市民サービス・管理水準・新たな事業展開等について協議し、外部の視点からの意見を反映させることが目的である。
 ・中期経営計画などを踏まえて、財務状況や生涯学習センターの今後の事業等について外部の視点からの意見を聞く機会となったことについては、会議を有効活用するための工夫が見られ評価できる。
 ・今後、意見をできる限り反映した施設の運営をお願いしたい。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 流動性や利回り、安全性に留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。
- ▼ 「経理面での不正防止対策要領」及び「小口現金取扱要領」に基づき、現金残高、銀行口座、郵便振替口座の確認、領収書の作成及び保管、金券類、小口現金の管理を行い、適正な事務処理を行った。

・所管部局による検査及び公認会計士による外部監査の結果、適正に管理しているとの評価を受けた。

・適正に実施していると認められる。引き続き、職員間での日常的なチェック体制を確保し、金銭面での事故の無いよう適正管理に取り組んでいただきたい。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情に対しては、利用者ニーズとして記録し、速やかな対応を心がけた。また、毎月届いている要望等を職員で供覧し、情報の共有に努めた。

・意見、要望、質問について迅速な回答と対応を行った。
・施設に寄せられる意見の中には、回答先が不明なものもあるため、施設としての考え方や対応を利用者に伝えるために、必要に応じて館内に掲示した。

・要望・苦情に対しては、適切に対応していると認められる。
・苦情等への対応については、速やかな対応に加え、相手方の申出内容・状況を正しく聞き取り、施設側の事情を説明する際には誤解の無いように丁寧な説明を心がけていきたい。
・また、引き続き職員間での情報共有を行い、同様の事例や意見に対して、対応の差が出ることの無いようお願いしたい。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

- ▼ 利用者アンケートや各事業の受講者アンケート等によるセルフモニタリングを実施した。利用者アンケート等での要望・意見については、所管局とも連携し適切に対応した。

・利用者アンケート等により、利用者の施設利用に関する要望・意見等を把握するとともに、苦情等の整理・分析を行い、その結果を運営協議会に報告した。
・利用者ニーズが高い「交流学习コーナー」の座席数を増やし、多くの市民が利用できるように改善するなど利用者の声を反映した取り組みを行った。
・昨年度の所管局の評価にあった「利用したことがない市民の声を把握する方法」については検討に至らなかった。

・利用者アンケートは、改善点を発見するため重要なものであることから、引き続き、積極的に行っていただきたい。
・各事業の受講者アンケートは、施設や事業に対する市民の声を直接聞くことができる方法であることから、適宜質問内容を見直すなど、生涯学習事業の改善に繋げるツールの一つとして活用することに努めていきたい。

- ▼ 札幌市の業務財務検査に関しては、記録・帳簿等の適切な整備保管状況など要求水準を達成したかなどについて、自己チェックを行った。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) ▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなど、適正な労働環境の確保に努めている。また、法定労働時間を超えての労働については、36協定を締結し、労働基準監督署に届け出ている。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランスPlus取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。 ▼ 「私有スマートデバイス取扱要領」に則り、業務効率の向上を図った。	・ハラスメント防止のための研修に参加した。 ・昨年度の所管局の評価にあった「、カスタマーハラスメントへの取組」については、実施することができなかった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・カスタマーハラスメントへの取組については、運営協議会でも指摘があったことから、職員を守るという観点からも、組織として取り組むことをお願いしたい。 ・個人端末の利用については、セキュリティ及び勤務時間の管理に留意したうえで運用いただきたい。	A	B	C	D				
A	B	C	D								
(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ▼ 各関係法令に基づき、施設・設備などを維持した。長期的かつ安全な維持管理を行うため、故障や破損の早期発見、初期対応を速やかに行い、被害を最小限に留めるよう努めた。また、経年劣化により早期の改修が必要となっている施設構造部分などについては、所管局と連携し、計画的に対応していくよう努めた。	・躯体の不具合や敷地内の陥没等については、早期発見と立入制限等来館者の安全確保のための初期対応を迅速に行った。 ・経年劣化の激しい設備・機器等について、所管局と連携し、計画的に更新・修繕に取り組んだ。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・施設の老朽化が進む中、故障や破損を早期に発見し、利用者の安全確保、市民サービス向上のための施設維持管理に取り組んでいることや、設備や機器を計画的に更新していることは評価できる。	A	B	C	D				
A	B	C	D								

▼ 事件・事故が発生した場合は、適確に状況を判断し、常に利用者の安全を優先するよう職員の意識を統一した。 ▼ 緊急連絡網により、有事の連絡体制を整えた。 ▼ 損害保険等、必要な保険に加入し、万一の事故に備えた。	・館内他施設と情報を共有し、有事の際の連絡体制を整えた。 ・利用者の安全や快適な利用のため、貸室内の設備や機器を随時チェックし、整備・修繕に取り組んだ。 ・救急対応等の事件・事故時には、職員・守衛等が連携して対応した。	・今後も、法令、事故発生時の対応マニュアル等を適宜確認しながら、現在の取組を継続していきたい。
▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼ 清掃業務 清掃員を配置し、開館前及び開館中に巡回清掃することで、常に清潔な施設を維持した。ワックス塗布などの定期清掃も計画的に実施した。	・貸室の稼動状況に合わせ、効率よく清掃業務を実施することで、施設利用者に快適な利用環境を提供することができた。	・利用者からも清潔な施設への感謝の声が届いており、来館者が気持ちよく利用できる施設を維持していることは評価できる。引き続き、利用者が快適に過ごせる施設の維持に努めていきたい。 ・なお、契約事務において、入札説明書に定めた入札参加資格を満たすことを確認できる書類が落札業者から提出されていなかった。今後の契約事務においては、適切に運用すること。

▼ 警備業務

警備業務実施要領に基づき、専門の警備員を配置し、防災防犯体制を整え、利用者の安全確保に努めた。

・周辺観光施設の利用を目的とした観光客の増加に伴い、施設内の人の出入りが、継続して増えてきている。施設の周辺環境の変化についても、警備員との情報共有を徹底することで、不審者対応などをスムーズに行うよう努めた。

・地下鉄駅直結であることから、周辺の観光施設利用者の出入りも増えているが、事故なく施設を運営していることは評価できる。引き続き安全確保に努めていただきたい。

▼ 施設維持管理業務

施設及び設備の機能が長期にわたって正常に保たれるよう点検・保守に努め、故障が発生した場合は、速やかに復旧するよう努めた。

・開館から25年が経過し、施設の老朽化に伴う不具合等が発生している。また、令和3年度の大規模改修により更新された設備においても不具合が発生しており、施工業者や所管局と連携を取り適宜対応した。
・委託業者が定期的に保守点検を行ったほか、毎月定例会議も開催し、問題点や課題解決に向けた情報共有を行った。

・迅速な修繕や計画的な修繕を行っていることを評価する。
・今後も、点検業者との情報共有を密に行い、不具合が悪化する前の迅速な対応をお願いしたい。
・一方で、ピアノ保守点検業務において、仕様書に定められた資格を確認する書類が委託者から提出されていなかった。教育委員会からの指摘により、令和6年度中に提出を受けているものの、委託に際しては、受託者が必要な資格を有しているかどうか必ず確認を行うこと。

▼ 快適に利用できる施設環境の整備と利便性向上

・老朽化した館内の整備を日常的に行った。
・利用者のニーズや声を受けて、施設環境の整備や備品の追加及び更新を行った。

▼ 修繕

施設維持管理業務委託業者と連携をとり、修繕箇所が発生した場合には可能な限り利用者に影響が出ないように速やかに初期対応をとるよう努めた。

・委託業者との連携を密にし、利用者への影響を最小限にすることを優先し、速やかな修繕対応を行った。
・機器の故障を未然に防ぐための日常点検を随時行った。

▼ 備品管理

日頃から備品の点検・保守に努め、破損・故障等が発生した場合は速やかに復旧するよう努めた。

・日常的に備品の点検保守を行い、老朽化している備品は適切に廃棄処分を行った。
・所管局と連携し、一部の研修室の机や、音楽スタジオのベースアンプを新調したほか、当センターでも独自に研修室等のマイクのグリルヘッド、プロジェクター、姿見、映像及び音声ケーブル等を新調し、常に良好な状態で市民に貸し出しができるよう努めた。
・消火器やガス検知器等の消防関連備品について、期限切れがないよう改めて全数点検を行った。

・利用者の安全のためにも、備品の使用期限や設備の交換推奨期限に十分留意し、交換等が必要なものは、速やかに教育委員会への報告や指定管理者での交換をお願いしたい。
・また、点検については再委託業者との密な情報交換をお願いしたい。
・積極的に不用物品の洗い出しや廃棄に取り組んでいることは評価する。

▼ 駐車場管理 「生涯学習センター駐車場管理運営業務仕様書」に基づき、駐車場管理者と協議を行いながら、運営を行った。	・老朽化により躯体や設備の不具合が顕著となっているとともに、昨今の物価高・人件費上昇により管理費や修繕費が増加している。指定管理者や管理者のみでは対応できない案件が増えてきており、今後の駐車場管理のあり方について所管局と対応を協議していきたい。	・駐車場については、民間商業施設の一部を使用していることから、再委託業者と連携し、利用しやすい駐車場にしていきたい。
▼ 外溝緑地管理 再委託業者に対し、随時適切な指導監督、点検確認を行い、美観の保持、利用者の安全を確保し、快適な緑地環境に努めた。	・年間計画どおりに安全確保、美観の保持を行った。	利用者の安全に支障がないよう、引き続き万全の管理をお願いしたい。
▽ 防災 ▼ 利用者の安全を確保するため、防災計画に基づき、災害などの緊急事態に備えた体制づくりを行った。 ▼ 生涯学習総合センター内の4施設合同の防災訓練を定期的実施し、災害時に備えた。 令和6年8月、12月、令和7年3月に消防(防災)訓練を実施した。 なお、実施にあたっては、札幌市民防災センターを会場に職員がさまざまな災害を疑似体験し、その対応を実践的に学ぶ訓練や、来館者との合同の避難訓練(市民カレッジの一環として実施)など、実践的な内容で実施した。 ▼ 災害時に備え、館内施設内において夜間緊急連絡網の整備・再確認を行い連携を強化した。	・ホームページを館内以外からも情報更新できるようにし、緊急時に備えている。 ・防火及び防災訓練では館内他施設への参加協力を行い、連携強化を図った。 ・昨年度の所管局の評価にあった「訓練においても具体的なシミュレーションを行い、万が一の時の利用者の安全確保のため備えていただきたい。」との助言を受け、来館者との合同の避難訓練(市民カレッジの一環として実施。受講中に火災が発生した想定)を初めて開催するなど、訓練内容の充実を図った。	・新たな取組として、有事の際の利用者の安全確保に備え、利用者と合同の避難訓練を実施したことを評価する。 ・訓練を実施する際には、各職員の役割や動きを共有すると共に、具体の有事を想定し、引き続き緊張感を持って望んでいただきたい。

(4)事業の計画・実施業務

▽ 生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関する業務

①さっぽろ市民カレッジの実施

▼ 1年を3期(4～8月、9～12月、1～3月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の3つの系統で幅広い年齢層を対象に実施した。

【実績】

受講者 3,829名(計画3,300名)207講座(計画186講座)実施

▼ 【企画委員会】

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月3日)	委員6名参加 ・令和5年度講座実施報告 ・令和6年度春・夏期講座について ・令和6年度秋期講座について
第2回 (10月4日)	委員7名参加 ・令和6年度春・夏期講座の実施報告 ・令和6年度秋期講座の実施状況について ・令和6年度冬期講座について ・令和7年度の年間目標について
第3回 (12月16日)	委員5名参加 ・令和6年度秋期講座の実施報告 ・令和6年度冬期講座について ・令和7年度の市民カレッジについて ・令和7年度春・夏期講座の企画について

市民活動系及び産業・ビジネス系を中心に実践者を講師に招き、受講後の活動を見据えた実践的な内容で、実施したことから、学習意欲を高めることができた。

・学びのきっかけづくりのために講演会形式の講座を新たに実施した。気軽にできるよう2時間1コマで、市民の関心の高いテーマで開講したところ、初めて市民カレッジを受講する方も多く見られ、新たな受講者の掘り起こしにつながった。

・次年度講座の重点目標について、テーマや実施方法などさまざまなご意見をいただき、事業運営の参考とすることができた。

・受講者数は要求水準を満たしており、感想も概ね好評であることは評価できる。

・市民の興味がありそうなテーマを選定し、これまでとは違った形式で講座を実施したことにより、新たな受講者の掘り起こしや、学びのきっかけづくりを提供したことも評価できる。

・実施した講座について受講者層や受講率に関する分析を行い、受講者の裾野を広げるため、各世代のニーズを捉えた企画をお願いしたい。

・企画委員会での協議は、講座の企画にあたっての課題や市民カレッジの運営にあたっての課題などテーマを選定し、課題解決の手がかりに繋がる場とするなど、会議の充実に向け更なる工夫をしていただきたい。

・また、生涯学習に関する調査研究事業の結果を企画委員に提示し、企画委員会での活発な意見交換を期待したい。

＜企画委員会メンバー＞

- ・長谷川聡(北海道医療大学非常勤講師)
- ・丸山博子(丸山環境教育事務所代表)
- ・安富啓(株)石塚計画デザイン事務所代表取締役)
- ・臼井栄三(マーケティングプランナー)
- ・栢谷隆男(札幌学院大学特任教授)
- ・井上大樹(札幌学院大学准教授)
- ・福光健治(ちえりあ学習ボランティア代表)

▼【センター企画講座】

まちづくり活動へのきっかけとなる講座や、ビジネススキルアップに向けた講座など、受講者にとって身近なテーマを取り扱った。講座の中で終了後の活動のイメージを持ち、学んだ成果を活動に活かすことができるような講座を実施した。また講演会形式の講座に取り組んだ。

・講演会形式の講座は、気軽にできるよう2時間1コマで、市民の関心の高いテーマで開講したところ、初めて市民カレッジを受講する方も多く見られ、新たな受講者の掘り起こしにつながった。

・市民が興味を持ちやすいテーマで気軽に受講できる講座が実施され、実際に新たな受講者の掘り起こしにつながったことは評価できる。引き続き、生涯学習の裾野を広げる講座の実施をお願いしたい。

▼【大学との連携事業】

大学と連携し、互いの特性を生かした講座を提供した。

【実績】

札幌市立大学

「小樽の歴史的建造物をたどる」20名

北海学園大学

「わくわく親子バルーンアート教室」10組20名

「和菓子を楽しく作ってみよう」16名

北海道科学大学

「小さいけどすごい！進化する半導体」15組30名

・北海学園大学との連携講座では学生に企画、運営を担当してもらい、社会教育主事課程の一貫として実施することができた。

▼【市民活動団体や専門機関などとの連携事業】

市民活動団体や専門機関と企画段階から連携し、互いの特性を生かした講座を提供した。

【実績】

石山大学(石山地区の学びの場)

「旧石切山駅から旧藤の沢跡地をたどろう」20名

円山動物園

「オランウータンから環境問題を考える室」20名

現地学習を交えるなど、専門性が高い中にも親しみを感じられるような講座を実施した。

・専門性の高い団体や機関、また民間企業などのノウハウとネットワークを生かし、今後も市民の興味関心を引くような講座の企画をお願いしたい。

▼【企業との連携】

それぞれの企業の特性を生かした講座を実施し、より専門的で深い知識を提供した。

【実績】

- ・雪印メグミルク(株)
「牛のお話と工場探検！」(夏期)20組40名・(冬期)18組36名
- ・東洋水産(株)
「子どもラーメン道場」10組20名
「おいしい『めんつゆ』の虎の巻！」(午前)19組38名・(午後)20組40名
- ・アサヒビール(株)
「つくって、学ぼう！SDGs」(夏)7組14名・(冬)5組10名
「お酒との上手な付き合い方」31名
- ・(株)日本能率協会マネジメントセンター
「自分らしい時間＜とき＞を描こう！」8名
- ・NoMaps実行委員会
「札幌国際短編映画祭の舞台裏」4名
「生成系AIを活用して企画書を作成しよう」15名
- ・(株)明治
「発見！チョコレートのみみつ」14組28名
- ・(株)ルピシアグルマン
「知られざる新商品開発の舞台裏」28名

▼【行政機関との連携】

市内の図書館と連携し、ご近所先生企画講座を実施した。

【実績】 7館12講座

▼【ご近所先生企画講座】

「市民の学び合い」をコンセプトに、市民の学習成果の活用を図りながら、地域における新たな学習コミュニティづくりを進めている。

生涯学習センター及び区民センター、図書館等(市内20ヶ所)で、91講座実施した。

なお、本講座の概要は以下のとおり。

- 知識や経験を生かしたい市民が講師を務めており、講座の企画から運営までを市民が担っている。
- 区民センターや図書館などと連携し、地域における生涯学習活動の活性化を目指すネットワーク型の学習システムであり、連携施設(会場)で実施する講座は、地域特性を踏まえて連携施設が選定している。
- 講師が講座終了後も地域で自立した活動を続けるためには、学びたい側のニーズを踏まえた講座企画や、受講者募集のための広報活動を講師自らが行うことが求められることから、その意識を醸成するため最低開講人数を設定している。

生涯学習センター及び区民センター、図書館等(市内20ヶ所)で、91講座実施した。

・民間企業などと連携し、それぞれの持つノウハウとネットワークを生かし、多彩な学習機会を提供することができた。

・地域における新たな学びの機会を創出した。

・第3次札幌市生涯学習推進構想の「まちの活力を高めるための学びの推進」「学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実」の実現を目指し、市民が講師(=ご近所先生)となり、自身の知識・特技・経験を生かした講座を市内各地で展開することで、学びを手段とした新たな“縁(=学習縁)”をつくり出すことができた。

・身近な地域の施設を会場として、学びの機会の拡充に取り組んでいることは評価できる。

・毎年、一定数の講座が、申込者不足により開講中止となっている現状を踏まえ、生涯学習センターとしての介入の仕方について改めて検討し、開講中止講座数の減少に努めていただきたい。

▼ 【ちえりあ学習ボランティア企画講座】 講座やイベントの企画・運営を行う「ちえりあ学習ボランティア」がアート班、歴史班、社会・環境班、札幌学班、健康班の5つの班に分かれて、それぞれのテーマで15講座実施した。	・定員を超える申し込みがある講座も多くあり、市民の学習ニーズを捉えた講座の企画・運営を行うことができた。 ・講座アンケートに寄せられた意見を基に現地学習やまちあるきを取り入れた講座を実施した。	・市民の学習ニーズを捉えた講座を企画・提供したことは評価できる。 ・引き続き、学習成果を生かした社会参加の推進に取り組んでいただきたい。
▼ 【学社融合講座】 学校教育と社会教育が企画段階から連携(協働)し、市立札幌大通高校において、市民と生徒が共に学び合う講座を19講座実施した。講座を修了した生徒は、大津高校の卒業に必要な履修単位として認定された。 なお、講座においては市民と生徒が対話や共同作業を行う機会を設け、世代間の交流を通して社会性や多様な価値観を身につけることを促している。	・学社融合講座として、高校生と市民による異世代間交流の学びを図ることができた。	・高校生と市民が一緒に同じ講座を受講するだけではなく、講座の中で交流の時間を設けるなど、引き続き、異なる世代が共に学ぶことの意義や相互学習による学習効果を見出せるような講座企画を期待する。
▼ 有機的なネットワークの形成と学びのコミュニティを創造した。	・ご近所先生企画講座において、講座後のサークル化を促し、新たな学びのコミュニティを創出した。 ・これまでに培ったネットワークが途切れないように、コミュニケーションを図りながらネットワークと学びのコミュニティの維持に努めた。	・学びをきっかけにした人と人とのつながりづくりに寄与したことは評価できる。 ・今後も、市民の「学び」を支援する中核施設として、人と人とのつながりを育む機会の創出に取り組んでいただきたい。
▼ 身近な地域で学びを深める環境づくりの推進	・区民センター等のコミュニティ施設や、市内の図書館でさっぽろ市民カレッジ(ご近所先生企画講座)を実施し、地域での学びの場の充実を図った。	・身近な地域での学びは、市民の学習活動を支援するためには重要であることから、様々な学習のニーズに沿った講座の展開に取り組んでいただきたい。

②生涯学習に関する指導者等の人材育成

- ▼ 市民カレッジ受講修了者が講師となる講座を設けるなど、様々な形で学んだ成果の活用を促進した。

ア 市民講師育成(ご近所先生)

ご近所先生企画講座の講師を希望する市民を対象に、受講者とのコミュニケーションや指導方法など講師のスキルアップを目的とした研修会等を実施した。また、講師同士の交流を深め、講座の運営の悩み解決に役立つテーマのワークショップや、講師同士がお互いの悩みや成功例を話し合う交流会を実施した。

【実績】説明会4回(うちオンライン開催2回)101名

研修会4回83名

交流会1回22名

・研修や面談、初回講座の立ち合い及び最終回実施後の面談を通して、講座の企画から運営までを行うことができる講師を育成することができた。

・昨年度の所管局の評価にあった「育成した講師が将来的には生涯学習センターを介さずとも地域で活躍できるスキームづくり」については検討に至らなかった。

・引き続き、育成した講師が生涯学習センターを介さずに地域で活躍できるようなスキーム作りをご検討いただきたい。

イ ちえりあビデオクルー

センター事業や他団体による地域の活動・行事などのビデオ撮影・編集を依頼した。映像作品をYouTubeに公開したり、主催者に提出したりすることで、地域の活動のPRに活かしている。また、さっぽろ市民カレッジの動画編集講座にて、講座の企画や運営補助を担ってもらうなど、活動の場を提供した。

【実績】登録者11名

月例会12回

研修会1回

講座企画・運営補助 2講座

・ロビーコンサートの撮影・編集を行い映像作品を公開することで、学習成果を生かす場を提供することができた。

・学習支援者活用推進事業については、コーディネーターが難しい取組であるに関わらず、各ボランティアが活躍していることは、市民カレッジ事業の本来目的である「学習成果の活用」の取組として評価できる。

・新たなグループの立ち上げの支援にも継続して努めていきたい。

ウ カメラボランティア

市民カレッジ「カメラで始めるボランティア活動！」の運営補助や、ちえテラスでの写真の作品展示などの活動の場を提供した。

【実績】登録者12名

月例会12回

講座企画・運営補助1講座

活動紹介・作品展示2回

・学習支援者に講座のサポートをしてもらうことで、講座内容の充実を図ることができ、学習支援者にとっても良い学び合いの機会を提供することができた。

エ コーラスボランティア

さっぽろ市民カレッジ「楽しく歌ってボランティア」講座修了者で結成されたサークルに、同講座の運営補助を務めてもらい、学習成果活用の機会を提供した。

【実績】登録者17名

講座運営補助1講座

▼ 生涯学習関連施設職員等の研修事業 区民センターや地区センター、図書館などの職員を対象に、生涯学習施設における講座の企画・タイトル・チラシなどの作成方法を学ぶ研修を実施した。 【実績】1回25名(21施設)	・事前に参加施設の要望を聞き、講座の企画をテーマに対面で実施した。 ・Canva(無料で使えるデザインツール)の操作方法を学ぶなど実践的なプログラムで実施した。 ・研修受講者の中から、市民カレッジのCanva講座を受講する参加者もあり、継続的な学びにつながった。 ・グループワークを通じて参加者同士の交流を図ることもできた。	・地域の生涯学習を推進していくためには、生涯学習センターのみならず、コミュニティ施設等地域の生涯学習関連施設に対する取組の充実が欠かせない。その一助として、この研修事業は資質向上とネットワークづくりという重要な役割を担っている。 ・実践的かつ実用的な研修によって参加者同士がスキルを高め合える機会を創出したほか、新たな学びの機会に繋がったことは評価できる。
③生涯学習ボランティア育成事業 ▼ 市民カレッジ講座の企画・運営に当たる「ちえりあ学習ボランティア」の活動として、講座企画・運営を話し合う定例会を実施した。また、活動のスキルアップにつながる研修会を実施した。 【実績】登録者53名 定例会 12回 研修会 4回	・研修会では、情報セキュリティの意識向上につながる内容や話し合いの円滑な進め方の講義など実践的な内容で実施することができた。	・ちえりあ学習ボランティアは「学ぶ側」から「学びを提供する側」へと、個人の活動領域を広げる貴重な機会である。 ・引き続き、登録者同士の交流や研鑽の場を積極的に設け、活躍機会の拡大につなげていきたい。
④職場体験などの受入れ ▼ 小学校や大学等から、職場体験や社会教育演習の実習などを受け入れた。また、小学生による見学等を受け入れた。 【実績】(職場体験・インターンシップ)4校15名	・就業観や就労意欲を高めることができた。 ・学生への指導を通して担当職員のスキル向上に繋げることができた。	・教育機関からの職場体験や実習の依頼については、今後も可能な限り積極的に受け入れていただくようお願いしたい。

▽ 生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関する業務 ▼ 「知の拠点」である図書館と連携実施している「ご近所先生企画講座」のより良い事業展開のあり方を探るため、図書館職員やご近所先生に、課題や意見などの聞き取りを行いとりまとめた。	・ご近所先生企画講座における図書館連携のあり方について、新たな気づきや今後の展開につながるヒントを得ることができた。 ・7年間の連携の中で、図書館側からも生涯学習施設としての役割を意識し、どう事業展開すべきか考え始めたという声が増え、生涯学習センターに企画やコーディネートなどを求める意見も寄せられた。 ・これからの連携のあり方については、今後さらに協議を重ねていく必要がある。	・図書館は、市民に身近な施設である一方で、図書館を会場とした講座の開講は課題も多いことから、解決に向けた手がかりを得るために調査研究のテーマに設定したことは評価できる。 ・今後は調査の結果をもとに、「知の拠点」である図書館との連携により身近な施設で「学びを深める」という視点を重視した展開を行っていただきたい。
▽ 生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関する業務 ①生涯学習情報誌の発行 ▼ 行政機関、高等教育機関、カルチャーセンター、NPOなど市民向けの学習機会を提供している各種施設の主な開催講座等の情報を掲載する冊子「さっぽろ生涯学習情報」を発行し、市内の公共施設などで配布したほか、ホームページ上に掲載した。 【実績】2回発行(8月、2月)各2,000部 ②子どもの学びガイドの発行 ▼ 市内の公共施設で開催される子ども向け事業を紹介する案内チラシ「子どもの学びガイド」を作成し、市立小学校の長期休業前に全児童に配布したほか、ホームページ上に掲載した。 【実績】4回発行(6月、7月、11月、12月)各93,000部	・行政機関や高等教育機関などの施設及び開催講座等の情報を収集し、それらをまとめた冊子を発行することで、市民に学習情報を提供することができた。 ・小学生向けの生涯学習に関する情報収集及び提供を積極的に行い、学校休業日における児童の自主的な学びを支援した。	・引き続き、生涯学習の中核施設として、市内で行われている多様な生涯学習情報を収集し、市民が活用しやすいかたちで提供する工夫をしていただきたい。

③ホームページの活用

▼ ホームページの活用

生涯学習センター事業や講座、施設等に関する情報などをホームページにて発信した。一般貸室の空室検索機能もあり、利用者の利便性を高めている。

【実績】ホームページアクセス数: 834,598件
メールマガジン配信13回
メールマガジン登録者3,080名

【ウェブアクセシビリティ】

- ・ウェブアクセシビリティ方針の公開
- ・「JIS X 8341 3 2016」の適合レベル AA準拠
- ・ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表の公表

・ウェブアクセシビリティを意識し、更新及び管理を行った。
・一斉受付に必要な書類をダウンロードできるように改善し、利便性の向上を図った。
・ウェブアクセシビリティに関する要求水準を満たすことができた。
・昨年度の所管局の評価にあった「ホームページの改善」については、委託費等の高騰により予算が確保できない状況にあった。

・ホームページについては、利用者にとって必要な情報の調べやすさという点では改善が必要と思われるため、引き続き、掲載内容等をご検討いただきたい。

④ 生涯学習センター広報誌の発行

- ▼ 生涯学習センター主催事業や講座、施設の情報を提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し市内の公共施設を中心に配布したほか、LINE公式アカウントやX(旧Twitter)を活用した情報配信も行った

【実績】

4回発行(6月、8月、11月、12月) 各回: 7,000部
LINE公式アカウント友達登録者数: 1,210名
X(旧Twitter)フォロワー 87名

・新着講座やおすすめ講座の情報をSNSで配信し、センターへの来館機会がない利用者へも情報発信を行った。

・多くの市民に生涯学習センターや実施している講座等を知ってもらうためには、LINE公式アカウントやXの登録者数を増やすことが重要である。講座やイベントの案内をSNS等で積極的に発信するほか、新規登録者数を増やす取り組みも行っていたきたい。

⑤メディアプラザ運営業務

▼ ア メディアプラザ運営事業

広く学習相談に応じるとともに、図書資料(約2万6千冊)と音楽資料(CD・約1万3千点)の収集と貸出やレファレンスサービスを通じて、学習活動の支援を行うほか、市内の他の図書館・図書室との相互の取り次ぎサービスに対応した。また、チラシ・パンフレットコーナーにおいても、市内の生涯学習講座や文化事業のチラシ・ポスターを掲示し、市民への情報提供を行った。さらには、無料のWi-Fi環境があり、図書資料や持ち込んだパソコンなどを使って調べもの学習ができる学びのスペース「ちえブース」を提供した。

【実績】来場者数 168,912名
利用者数 57,447名

・特設コーナーを設け、話題や季節に沿ったテーマ展示を行い、図書や音楽資料の貸出促進に繋げた。

・市民カレッジの講座内容に合わせたテーマ展示を行う等、メディアプラザの利用促進のほか学びを深める取組を積極的に行っていることを評価する。

(a) 図書閲覧・貸出

利用者の幅広い調べ学習を支援するため、蔵書約2万6千冊を閲覧及び貸出しに供すると共に、市内の他の図書館・図書室との相互の取り次ぎサービスに対応した。また、図書を活用した生涯学習に取り組むきっかけを作るため、所蔵資料や職員の専門性を活かしてレファレンスサービスを行った。

【実績】図書・CD貸出数：76,692点

(b) Chie Terrace事業

生涯学習支援スペース「(愛称)Chie Terrace(ちえテラス)」で、職員による「おはなし会」や、さっぽろ市民カレッジ修了生を中心に結成された読み聞かせボランティア(ファンタジアパル)による「えほんのよみきかせ」を実施した。また、「四季折々」をテーマにカメラボランティアが撮影した写真を展示した。

【実績】

おはなし会(絵本の読み聞かせ) 4回99名

ボランティアによる「えほんのよみきかせ」 9回321名

カメラボランティア作品展示 9/22(日)～3/28(金)

38作品

イ 学習相談、サークル・講師の紹介

生涯学習に関する相談に幅広く対応するとともに、「ちえりあ市民講師バンク」に登録している講師や、サークル活動の内容を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を提供した。

【実績】学習相談：14,196件

ちえりあ市民講師バンク登録者数：212名

サークル登録件数：153件

<メディアプラザでの学習相談の内訳>

(1) 講座内容等の問い合わせ件数：83件

(2) 施設の紹介：709件

(3) 講師の紹介件数：70件

(4) 講師登録件数：37件

(5) サークルの照会件数：509件

(6) レファレンス(図書・視聴覚)件数：549件

(7) その他(利用案内など)：1,035件

<メディアプラザ以外での学習相談>

11,204件

・市民が生涯にわたって学び続けることを支援できるような環境を提供することができた。

・引き続き交流スペースとして積極的な活用を検討していただきたい。

・市民の求めに応じた相応しい情報を提供することができた。

・昨年度の所管局の評価にあった「講師情報の発信や取組の評価の方法など、利用者の目線に立った事業改善」及び「登録講師のマッチングに関し、生涯学習関連施設や学習サークルへヒアリングを行う等により現状の課題を明らかにし、利用しやすい仕組みづくりを進め」ることについては検討に至らなかった。

・市民講師バンク事業は、学習機会のアウトリーチにおいて重要な仕組みである。

・講師情報の発信や取組の評価の方法、「学びたい」という希望に対しての登録講師のマッチングなどについて、引き続き効果的な方法や利用しやすい仕組みづくりを検討していただきたい。

▽ 生涯学習に関する事業を行う団体との連携及び交流の支援に関する業務

①生涯学習関連施設職員研修(再掲)

- ▼ 区民センターや地区センター、図書館などの職員を対象に、生涯学習施設における講座の企画の仕方からタイトルの作成方法、チラシ作りの手法などを学ぶ研修を実施した。

【実績】1回25名(21施設)

・事前に参加施設の要望を聞き、講座の企画方法をテーマに対面で実施した。

・Canva(無料で使えるデザインツール)の操作方法を学ぶなど実践的なプログラムで実施した。

・研修受講者の中から、市民カレッジのCanva講座を受講する参加者もあり、継続的な学びにつながった。

・グループワークを通じて参加者同士の交流を図ることもできた。

②連携講座の実施(再掲)

- ▼ 札幌市立大学との連携については、大学が持っている専門性を市民にわかりやすく提供することを目的に、歴史建造物に関する講座などを実施した。

【実績】

札幌市立大学

「小樽の歴史的建造物をたどる」20名

北海学園大学

「わくわく親子バルーンアート教室」10組20名

「和菓子を楽しく作ってみよう」16名

北海道科学大学

「小さいけどすごい！進化する半導体」15組30名

・北海学園大学との連携講座では学生に企画、運営を担当してもらい、社会教育主事課程の一貫として実施することができた。

③市立札幌大通高校との学社融合講座の実施(再掲)

- ▼ 【学社融合講座】(再掲)

学校教育と社会教育が企画段階から連携(協働)し、市立札幌大通高校において、市民と生徒が共に学び合う講座を19講座実施した。講座を修了した生徒は、大通高校の卒業に必要な履修単位として認定された。

なお、講座においては市民と生徒が対話や共同作業を行う機会を設け、世代間の交流を通して社会性や多様な価値観を身につけることを促している。

【実績】19講座429名

・学社融合講座として、高校生と市民による異世代間交流の学びを図ることができた。

・高校生と市民が一緒に同じ講座を受講するだけではなく、講座の中で交流の時間を設けるなど、引き続き、異なる世代が共に学ぶことの意義や相互学習による学習効果を見出せるような講座企画を期待する。

④民間企業等との連携講座の実施(再掲)

▼ 各企業等との連携した講座を実施した
【実績】

- ・雪印メグミルク(株)
「牛のお話と工場探検！」(夏期)20組40名・(冬期)18組36名
- ・東洋水産(株)
「子どもラーメン道場」10組20名
「おいしい『めんつゆ』の虎の巻！」(午前)19組38名・(午後)20組40名
- ・アサヒビール(株)
「つくって、学ぼう！SDGs」(夏)7組14名・(冬)5組10名
「お酒との上手な付き合い方」31名
- ・(株)日本能率協会マネジメントセンター
「自分らしい時間＜とき＞を描こう！」8名
- ・NoMaps実行委員会
「札幌国際短編映画祭の舞台裏」4名
「生成系AIを活用して企画書を作成しよう」15名
- ・(株)明治
「発見！チョコレートのはみつ」14組28名
- ・(株)ルピシアグルマン
「知られざる新商品開発の舞台裏」28名

・民間企業等と連携し、それぞれの持つノウハウとネットワークを生かし、多彩な学習機会を提供することができた。

▽ 学習成果の発表及び鑑賞の支援に関する業務

①ちえりあフェスティバル

- ▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念して、札幌市生涯学習センター、札幌市宮の沢若者活動センター、リサイクルプラザ宮の沢、札幌市教育センターの4団体が、合同で生涯学習活動に気軽に触れることができる多数のイベントを実施し、幅広い年齢層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図った。
【実績】8/25(日) 7,021名(1日間)

・幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図ることができた。
・モルック体験やご近所先生によるロビーイベントなど参加者が気軽に体験できるイベントを開催した。

・来場者が年々増加しており、ちえりあフェスティバルはちえりあの存在を多くの人に知ってもらった良い機会になったと考える。
・ちえりあフェスティバルをきっかけとして、生涯学習センターの利用者や生涯学習を始める人が増えるよう、今後も創意工夫し開催していただきたい。

②ちえりあロビーコンサート

- ▼ 市内や市近郊で音楽活動などに取り組む個人や団体に、音楽活動の発表の場を提供するとともに、市民に気軽に演奏を聴いてもらう機会を提供した。
【実績】7回(7団体出演)875名

・様々なジャンルの音楽を楽しむ機会を提供しており、リピーターも多く市民の音楽鑑賞の場として定着している。

・定期的に開催し、観客のリピーターも獲得していることを評価する。引き続き、市民の活動の発表の場を提供するとともに、市民に気軽に生演奏を聴くことができる機会を提供していただきたい。
・また、このような場を活用してさっぽろ市民カレッジ等のPRIにも務めていただきたい。

③サークル発表会

- ▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体に学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民がさまざまな生涯学習活動に触れる機会を創出した。
【実績】
(作品展示部門)
11/3(日)～9(土) 参加20団体(7日間)
(舞台発表部門・音楽)
11/5(火) 出演16団体(1日間)来場者193名
(舞台発表部門・舞踊)
11/6(水)、8(金)、9(土) 出演36団体(3日間)来場者903名

・サークル等の学習成果の発表の場と、市民がそれを鑑賞する機会を作ることができた。
・サークル発表会に併せて広場にキッチンカーに出店していただき、広場ににぎわいと交流を生み出す取り組みも行った。

・生涯学習センターに訪れるきっかけづくりとして、キッチンカーの出店等による広場のにぎわいづくりをイベントに合わせ実施したことを評価する。
・引き続き、市民の活動の発表の場を提供し、活動の活性化につなげていただきたい。

▽ 生涯学習センターの施設の利用等に関する業務

①貸室事業

- ▼ 市民の学習活動の場として、ちえりあホール及び各種研修室を条例に基づき有料で提供した。

・条例に基づき、公正・公平に貸出を行った。
・ホームページで空き状況を公開し、利用者の利便性を高めた。

・引き続き、利用者サービスの向上のため、見直しを行っていただきたい。
・ホームページにおける貸室の案内について、必要な情報の調べやすさという点で改善が必要と思われるため、掲載内容等をご検討いただきたい。

②施設の有効活用

- ▼ 創意工夫による効率的・効果的な運営を継続するとともに、貸室利用の促進のために新たな取り組みを行った。
- 「スタインウェイとヤマハの響きを楽しもう」
ホールの閑散期の利用促進のために、60分単位でステージを貸し切り、グランドピアノの弾き比べができるイベントを実施した。
 - 「アトリエの利便性向上」
室内の机を移動しやすいものに交換し、ダンスや太極拳等でも利用できるように改善した。
 - 「コスプレイヤー対象の内覧会の実施」
「コスプレ」などの写真撮影をしてもらえるように、職員が映像スタジオのクロマキーシートなど特色のある貸室などを案内する取り組みを行った。
 - 「学習のための施設開放」及び「交流学习コーナー」の充実
高校の夏休みなどに合わせ、利用申し込みがなかった貸室を無料開放する取り組みを継続するとともに、「交流学习コーナー」の机を増やし、より多くの市民が利用できるようにした。

- ▼ ギャラリーを市民の学習成果の発表の場として提供した。
【実績】市民貸し出し7件、センター事業2件

▽ その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業

①カルチャーナイト

- ▼ 公共・文化施設、企業施設の夜間開放や動画配信などを通じて様々な文化プログラムを提供しているカルチャーナイトに令和6年度も参加し、アニメの無料上映会を実施した。
- 【実績】
7/19(金) アニメで楽しむ「ざんねんないきもの辞典」2回来場者数合計201名

・利用者の多種多様な学習活動に適した施設利用方法を提案することができた。

・ホールの有効活用や新たな利用者層の掘り起こしにつながる新たな取り組みを積極的に行った。

・学習成果の発表の場となっているとともに、施設内の賑わいに繋がっている。

・作品発表の場として好評を得ている。

・ホールや貸室の利用促進のため、新たな取組を行っていることを評価する。

・今後は、新たな取組の結果から、利用率向上のための効果的な方法の検証を行っていただきたい。

・また、新たな利用者層が今後も生涯学習センターを利用できるよう、引き続き創意工夫により利用の促進につなげていただきたい。

・ロビースペース等の賑わいを創出するため、センター主催のイベントを積極的に企画するなど、新たな有効活用を期待したい。

・誰でも気軽に音楽や文化に触れる機会を創出していることを評価する。

・引き続き、生涯学習センターの利用者数の増加につながるような事業の企画・検討をお願いしたい。

	②ゆりかごコンサート ▼ 音楽に親しむ機会の少ない子育て中の親を対象に、その子どもと一緒に気軽に音楽を楽しんでもらえるコンサートをちえりあホールにて開催した。 【実績】10/18(金) 音楽工房ToToとまと 219名	・ホワイエにフォトスポットや楽器体験ができるコーナーを設けることで、待ち時間なども親子で楽しんでもらうことができた。									
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 別添のとおり ▽ 不承認0件、取消し94件、減免1,161件、還付155件(変更による還付含む) ▽ 利用促進の取組 ▼ 丁寧な対応で、利用者のニーズに沿うよう適切な貸室を提案をした。 ▼ 貸室利用の促進ために新たな取り組みを行った。(再掲) ●「スタインウェイとヤマハの響きを楽しもう」 ホールの閑散期の利用促進のために、60分単位でステージを貸し切り、グランドピアノの弾き比べができるイベントを実施した。 ●「アトリエの利便性向上」 室内の机を移動しやすいものに交換し、ダンスや太極拳等でも利用できるように改善した。 ●「コスプレイヤー対象の内覧会の実施」 「コスプレ」などの写真撮影をしてもらえるように、職員が映像スタジオのクロマキーシートなど特色のある貸室などを案内する取り組みを行った。 ●「学習のための施設開放」及び「交流学习コーナー」の充実 高校の夏休みなどに合わせ、利用申し込みがなかった貸室を無料開放する取り組みを継続するとともに、「交流学习コーナー」の机を増やし、より多くの市民が利用できるようにした。 ※ 上記に加えて、「ちえりあフェスティバル」と「サークル発表会」では広場にキッチンカーに出店していただき、広場ににぎわいと交流を生み出す取り組みも行った。	・利用者から要望が多かった備品を新たに導入したり、使いやすいよう貸出備品を見直したり等利用者の利便性向上に努めた。 ・利用促進に向けては新たな取り組みを積極的に行った。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・利用者のニーズに適宜対応し、利便性の向上に努めたことを評価する。	A	B	C	D				
A	B	C	D								

(6)付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	▼ 生涯学習センター主催事業や講座、施設の情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し市内の公共施設を中心に配布したほか、LINE公式アカウントやX(旧Twitter)を活用した情報配信も行った。(再掲) 【実績】 4回発行 各回:7,000部 LINE公式アカウント友達登録者数:1,210名 X(旧Twitter)フォロワー 87名 ▼ ホームページの活用(再掲) 生涯学習センター事業や講座、施設等に関する情報などをホームページにて発信した。 【実績】ホームページアクセス数:834,598件 メールマガジン配信13回 メールマガジン登録者3,080名 【ウェブアクセシビリティ】 ・ウェブアクセシビリティ方針の公開 ・「JIS X 8341 3 2016」の適合レベル AA準拠 ・ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表の公表 ▽ 引継ぎ業務 ▼ 継続して指定管理業務を行っているため、引継ぎは発生していない。	・広報誌、HP、LINEの他にXの新規導入も行い、さまざまな媒体を利用することで、広く市民の皆さまに情報を提供することができた。	・多くの市民に生涯学習センターや実施している講座等を知ってもらうためには、LINE公式アカウントやXの登録者数を増やすことが重要である。講座やイベントの案内を広報誌やSNS等で積極的に発信するほか、新規登録者数を増やす取り組みも行っていただきたい。 ・ホームページについては、利用者にとって必要な情報の調べやすさという点では改善が必要と思われるため、引き続き、掲載内容等をご検討いただきたい。
2 自主事業その他			
▽ 自主事業・収益事業			A B C D
①レストラン事業 ▼ ちえテラスに隣接したスペースにおいてカフェを運営し、来館者へ飲食物等を提供した。 売上手数料収入3,740 千円(計画 3,320千円) ②自動販売機事業 ▼ 売上高2,869千円(計画 2,566千円) ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等		・サークル活動後の交流や、学生の勉強、地域の憩いの場などに活用された。 ・売上額は堅調に推移し、ニーズに応えた運営ができたと考える。	・自主事業については、サービスの向上と収益性の両面を見据えた事業展開を期待したい。 ・また、新たな自主事業の検討も進めていただきたい。

▼ 委託業務、物品の購入などは、市内の企業に発注を心がけた。 ▼ 障がい者雇用(令和5年度採用 1名)		・委託、物品の発注等は、市内企業を積極的に活用した。	
3 利用者の満足度			
▽ 利用者アンケートの結果			
実施方法	貸室利用者、メディアプラザ利用者、講座受講者、期間中の主催事業参加者を対象に記述式のアンケートを実施。 期間:10/31(木)～R7/1/20(月) ※ただし、貸室利用者には利用の都度アンケートを行っているため、4月から12月末までに回収した全件を集計している。	・延べ2,500名を超える利用者にアンケートにご協力いただいた。 ・全ての項目とも、高い評価を得ることができた。 ・アンケート結果の掲示場所を昨年度までより増やし、市民への情報共有を心がけた。	
結果概要	2階の窓口、1階メディアプラザ及び交流学習コーナーの掲示板に、アンケートの集計結果や寄せられた意見やその回答を掲示した。		
	●総合満足度 【貸室利用者】(N=2,536)とても満足:59.4% まあ満足:38.3% 普通:2.2% 少し不満:0.0% 不満:0.0% 【事業参加者】(N=124)とても満足:76.6% まあ満足:15.3% 普通5.6% 少し不満:1.6% 不満:0.8%		
	●接遇 【貸室利用者】(N=2,543)大変良かった:66.4% まあ良かった:28.9% 普通:4.7% あまりよくなかった:0.0% 悪かった:0.0% 【事業参加者】(N=169)大変良かった:66.3% まあ良かった:30.2% 普通:3.0% あまりよくなかった:0.6% 悪かった:0.0%		
	●生涯学習事業(N=94) とても満足:81.9% まあ満足:12.7% 普通4.2% 少し不満:1.0% 不満:0.0%		
利用者からの意見・要望とその対応	・以前より貸室利用料の「振込」「クレジットカード」対応など、来館せずに貸室利用料金を支払いたいとの要望が多かった。この声に応え、令和7年度中に、WEB上からのクレジットカード決済と、コンビニ支払に対応する予定となっている。 ・「全館のフリーWi-Fi」を望む声が毎年多数寄せられるが、経費等の問題があり、実現には至っていない。 ・「図書コーナーへのコピー機の設置」を望む声が複数ある。現在、2階交流学習コーナーにコピー機が設置してあるため、その利用を促している。また、来館者がより利用しやすい場所への移動も検討している。	・実現できるものは実現すべく鋭意取り組んでいる。 ・大規模な施設改修や、札幌市の協力が必要なものなど、実現が困難なものもある。	

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	R6年度計画	R6年度決算	差(決算-計画)
収入	495,166	502,549	7,383
指定管理業務収入	489,280	495,941	6,661
指定管理費	387,473	393,236	5,763
利用料金	90,144	90,149	5
その他	11,663	12,556	893
受取補償金	0	0	0
自主事業収入	5,886	6,608	722
支出	571,741	528,807	▲ 42,934
指定管理業務支出	567,790	525,020	▲ 42,770
自主事業支出	3,951	3,787	▲ 164
収入-支出	▲ 76,575	▲ 26,258	50,317
利益還元	0	0	0
法人税等	60	1,092	1,032
純利益	▲ 76,635	▲ 27,350	49,285

▽ 説明

▼ 純利益は、▲27百万円と引き続き厳しい結果となった。

▼ ただし、計画比では49百万円の改善がみられている。
これは、「収入」において、札幌市からの指定管理費の補てん(人件費等)があったこと、「支出」において、貸室予約システムの次年度への繰り越しや清掃の業務委託費の縮減があったことなどによる。

・昨年度の所管局の評価にあった「収入の増につながる自主事業の展開」については、さまざまな検討を行ったが、昨今の光熱水費や物価の高騰が想定を超えており、現状の収支差を埋めることは極めて困難である。
・今後は、自主事業に限定することなく、利用促進や利便性を高める取り組みを進めることとする。

A	B	C	D
・物価高騰や人件費の増加による支出増はあるが、財政状況が厳しい中、堅実経営に努めたことは評価する。 ・収入の増につながる自主事業の展開について、施設の運営を続けるためには必要不可欠であることから、引き続き検討を重ねていただき、可能な範囲での取組を期待したい。			

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

▼ 公益財団法人として求められる水準を満たすため、主たる事業である公益目的事業において利益を得ることはできていないが、貸室の利用率やさっぽろ市民カレッジの受講者数などは一定の水準を保っている。

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

▼ 札幌市個人情報保護条例の趣旨に則り「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団個人情報保護規則」及び「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団個人情報事務取扱要綱」を制定し、個人情報を適正に管理した。

▼ 管理サイト全体の暗号化、個人情報パスワード保護に加えチェック体制の強化に努めている。

▼ 主な個人情報について、紙媒体は鍵付きキャビネットで、電子データはパスワード管理にて、厳格な保守管理の下、適正に取り扱っている。

▼ 情報公開については、ホームページ上で個人情報の取扱いについて、基準及び規程を公開している。

適	不適

適	不適

▼ 財団の定款、役員名簿、事業計画、事業報告、財務諸表等をホームページで公開しており、センターの運営状況の積極的な情報開示を行っている。		
▼ 受託者やその他契約の相手方について、「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」と「暴力団の排除にかかる照会事務マニュアル」に基づき事務を行っている。		
▼ 業務委託などの取引先をはじめ、貸室利用受付時においても暴力団員または関係事業者を相手方としないよう確認している。		

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
市民カレッジについては、これまでの取り組みに加え、新たな試みとして、講演会形式の大型講座や避難訓練付きの講座を実施した。 また、市民カレッジのあり方検討の一環として、ご近所先生企画講座における図書館との連携に関し、図書館職員へのインタビューなど含め調査・研究を行った。	市民カレッジのあり方検討については、対象とすべき範囲が広く、深度の深い議論が欠かせないものであり、相当の時間をかけてじっくりと進めていく必要があると考えている。 また、市民カレッジ受講者の利便性に配慮した受講料のキャッシュレス対応など支払方法の多様化に向けては、令和6年度からその検討に着手しているところであるが、ある程度の規模のシステム改修が必要となる見込みであることから、今後の財団の経営状況を十分に勘案しながら、導入に向けた調査を引き続き進めていく。
メディアプラザにおいては、これまで同様、時節に合わせた図書やCDの特集に加えて、子どもや乳幼児を対象としたイベントの開催に合わせて、児童書や子育て関連の特集コーナーを設けるなど、幅広い世代に向けた利用促進に努めた。 また、メディアプラザのあり方検討を進めるにあたり、他都市の先進施設(6施設)の視察を行い、それぞれの施設の特長(いわば何を大切に、何を捨てているのか)について調査・研究を行った。	メディアプラザのあり方検討については引き続き進めていくが、市民カレッジのあり方検討と同様、拙速に答えを出すことなく、来年度以降も専門家や有識者などのご見解を伺いながら、取り組んでいくこととする。
毎月初めに行っていた貸室の一斉受付については、利用者の利便性向上のため、来館不要の手法に改めた。 また、貸室の利用促進を図るため、ホールや映像スタジオを活用したイベントを実施した。	貸室の予約については、より利便性を高める観点から、令和7年9月に新システムを導入する。これと併せて、利用料金のキャッシュレス決済も可能となるように取り組む。 貸室の利用促進に向けては、イベントを開催したり、よりわかりやすい情報が届けられるようにしたりするなど、様々な工夫を講じていく。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
・施設の老朽化が進む中、突発的な事象に迅速に対応していることや、可能な範囲で計画的に修繕等を実施していることを評価する。 ・貸室の運用については、一斉受付の方法を対面方式からメール等でも申請できる非対面方式に変更し、利用者の利便性の向上に努めたことや、平日のホールの利用率を上げる取組を行ったことを評価する。今後も継続して、利用率向上のための取組や検討を行っていただきたい。 ・市民カレッジにおいて、「漫画」を切り口にしたテーマにより20～30代の受講者を増やすなど、新たな利用者層の掘り起こしを行ったことを評価する。今後も受講者アンケートの活用などにより、一層市民ニーズに沿った講座を企画していただきたい。 ・一斉受付の方法変更や、市民カレッジにおける新たなテーマ設定のような、利用者の利便性やサービス向上の取組は今後も積極的に実施していただき、特にホームページについては、利用者数の増加につながるよう、見直しに取り組んでいただきたい。 ・本市の生涯学習の中核施設として、引き続き、機能の拡充・強化に取り組んでいただきたい。	・令和6年度の業務財務検査において、仕様書に定めた資格の保有の確認がなされていなかったことや、入札説明書に定めた資格を満たすことが確認できる書類の確認漏れについて指摘しているところである。 ・令和7年度の再委託契約においては、仕様で定める資格の確認が適切に行われているところ。今後の運用については仕様を遵守するよう、御留意いただきたい。